

第2期
雲南市 子ども・子育て支援事業計画
(案)

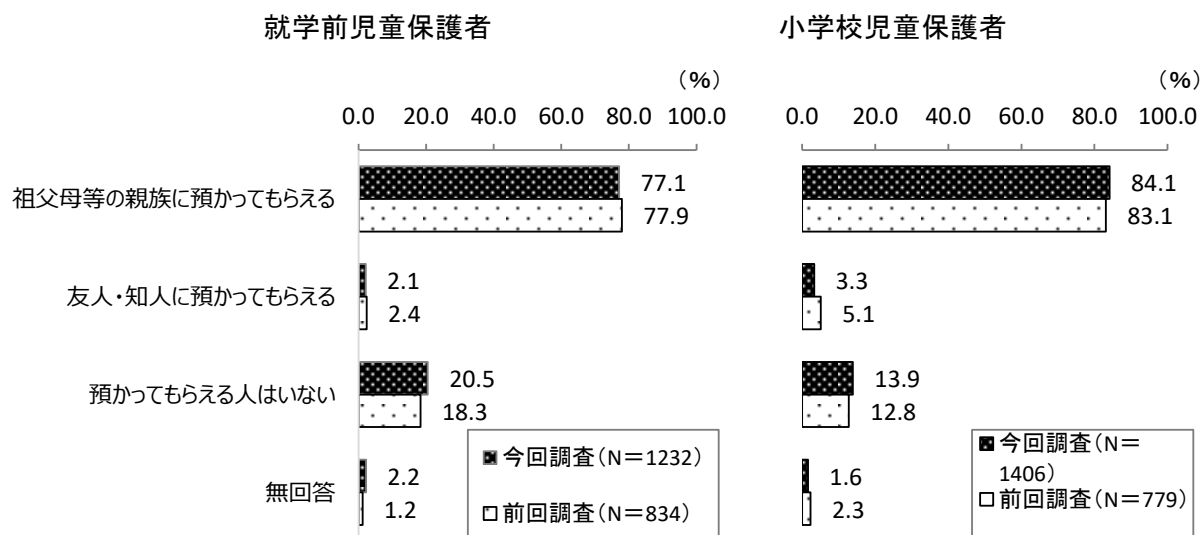
《資料編》

【1】利用意向把握調査（ニーズ調査）の回答	1
1. 親族等からの支援の状況	1
2. 保護者の就労状況	2
3. 就学前児童の子育て支援施設・事業の利用状況	3
4. 子育て支援センターの利用について	7
5. 就学前児童の病気やケガ時の対応について	7
6. 就学前児童の一時預かり等について	8
7. 就学前児童の宿泊を伴う預かりの状況について	9
8. 就学前児童の小学校入学後について	10
9. 育児休業制度の利用について	12
10. 子育て全般について	13
 【2】関係団体ヒアリング調査回答	 17
1. 子育て環境の現状	17
2. 子育て環境に関する成果と課題	18
3. 地域的な問題点や課題	19
4. 保護者の事業に対するニーズ	21
5. 子育ての不安や悩み	22
6. 運営上の課題	23
7. 今後、取り組むべきこと	24
8. 児童虐待について	26
9. 雲南省の今後の取り組み	27
10. 行政に期待する支援策	28
11. その他の意見	29

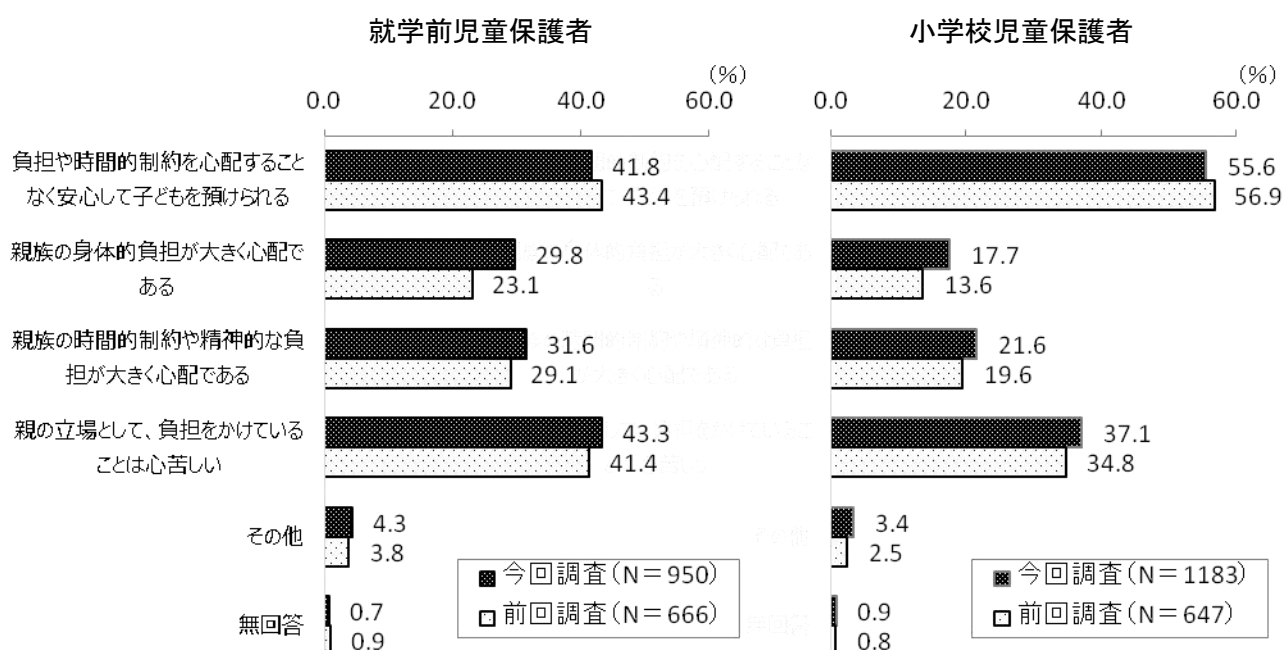
【1】利用意向把握調査(ニーズ調査)の回答

1. 親族等からの支援の状況

就学前児童、小学校児童ともに、日頃は祖父母等の親族に預けられる人が多数を占めていますが、預かってもらえる人がいない家庭も就学前児童で2割程度みられます。



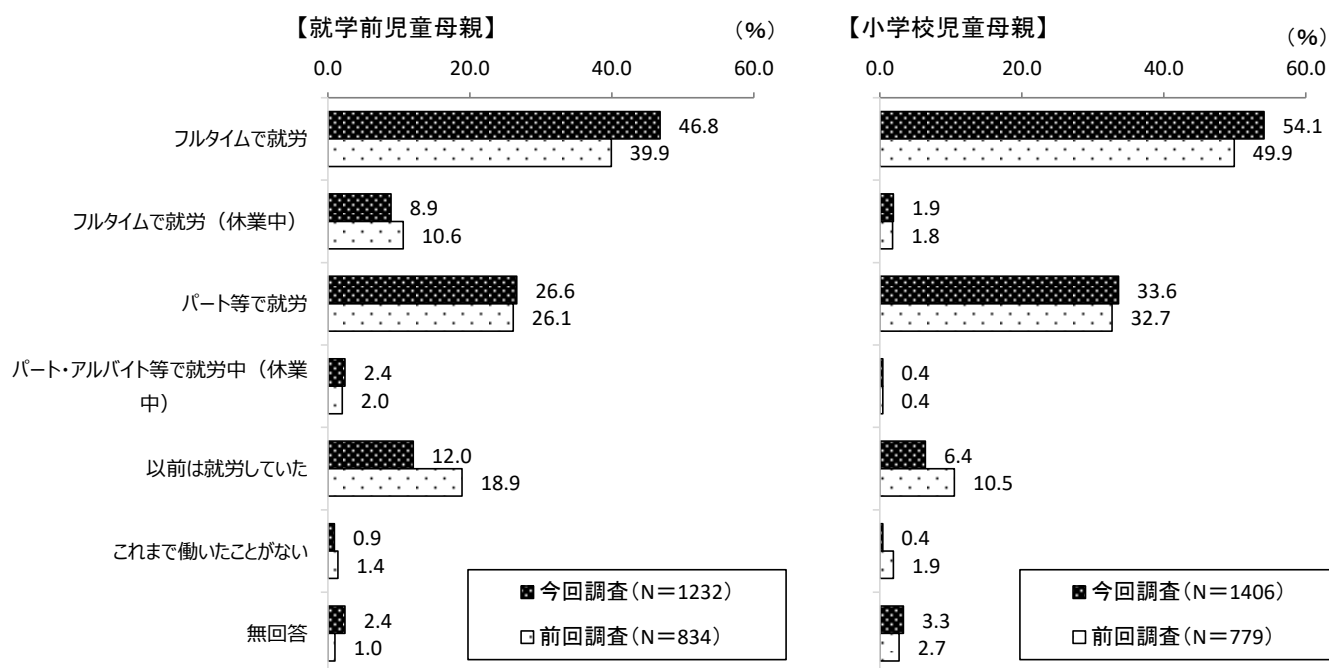
親族に預かってもらっている状況としては「安心して預けられる」回答が多い一方で、親族の身体的負担や時間的・精神的負担を心配する割合も高く、全体的に前回調査よりもやや増加しています。小学校児童になると、就学前児童より親族等の負担を心配する割合は下がりますが、心苦しさをを感じる割合は一定程度あり、増加の傾向にあります。



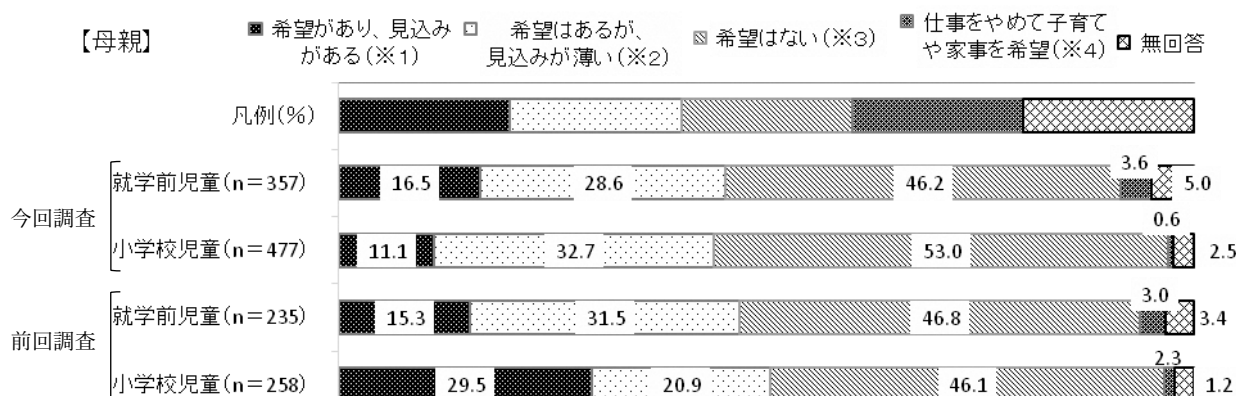
2. 保護者の就労状況

就学前児童の母親の半数以上がフルタイムで就労しており(休業中を含む)、約 3 割がパートタイムで就労しています。合計で 8 割以上が現在就労していることになります。小学校児童では就学前児童に比べ母親の就労している割合は9割にのぼっており、子どもの成長に伴い、さらに就労が進んでいます。

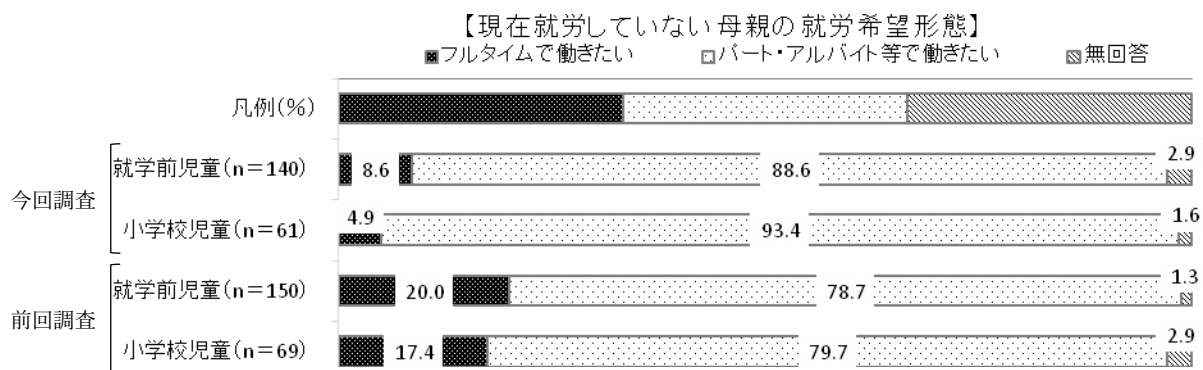
前回調査と比較すると、フルタイム、パート・アルバイト等での就労のいずれにおいても母親の就労は増加しており、子育てをしながら就労する環境が整ってきたことが伺えます。



現在、パート・アルバイトで就労している就学前児童の母親の半数近くが、フルタイムへの転換を希望しています。また、現在、就労していない母親の大半が今後、パート・アルバイトを中心とした就労を希望しています。フルタイムでの就労希望が前回調査よりもやや減少していますが、今後とも、就労環境の整備及び子育て支援の充実が求められます。



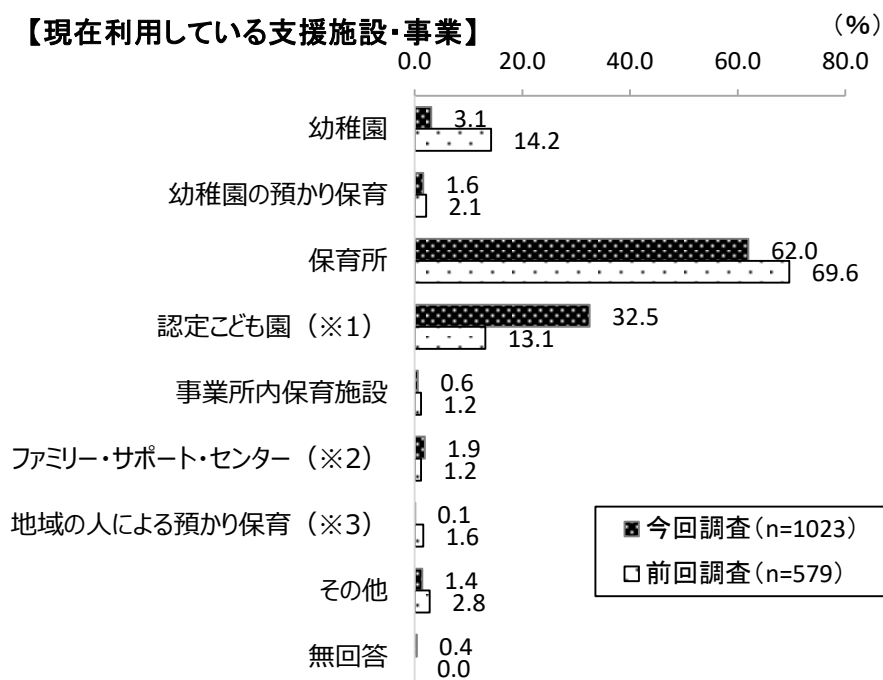
- ※1 フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
 ※2 フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない(またはわからない)
 ※3 パート・アルバイト等の仕事を続けることを希望している
 ※4 パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい



3. 就学前児童の子育て支援施設・事業の利用状況

就学前児童の8割以上が子育て支援施設や事業を利用しており、前回調査と比較すると、その割合は1割以上の上昇となっており、支援施設・事業が整備された結果が伺えます。(前回:69.5%→今回:83.0%)

そのうち、「保育所」が最も高い割合となっていますが、幼稚園や保育所から認定こども園への移行が進んだことが、利用の割合にも連動しています。特に「幼稚園」の割合は、前回調査から約1割の低下となっています。



※1 加茂幼稚園、木次こども園(前回)／加茂こども園、木次こども園、大東こども園、西こども園、海潮こども園、斐伊こども園、三刀屋こども園、吉田保育所(今回)

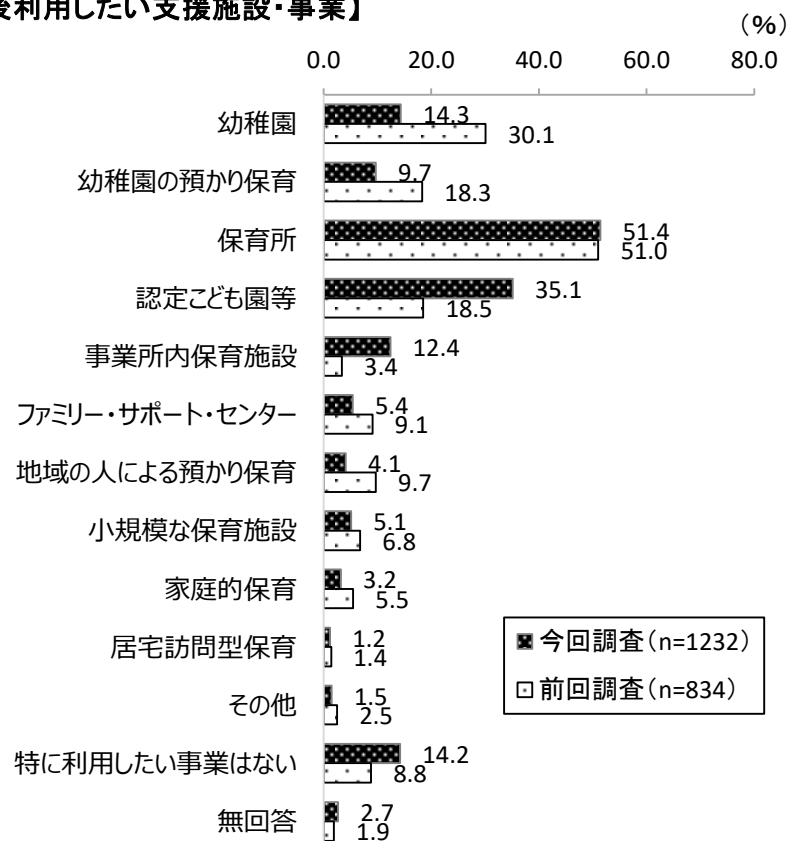
※2 子育ての援助をしてほしい人と、子育ての援助をしたい人が育児の相互援助を行う事業

※3 幼稚園終了後などの地域の人による預かり保育

現在、子育て支援施設を利用している、いないに関わらず、今後の利用希望としては「保育所」が最も高く、51.4%となっています。次いで「認定こども園」が 35.1%であり、前回より大きく割合が上がっています。「事業所内保育施設」は 12.4%ですが、これも前回調査から割合が上昇しており、利用希望者への認知が広まったことが伺えます。

一方で、「幼稚園」は 14.3%ですが、前回調査より大きく割合が下がりました。

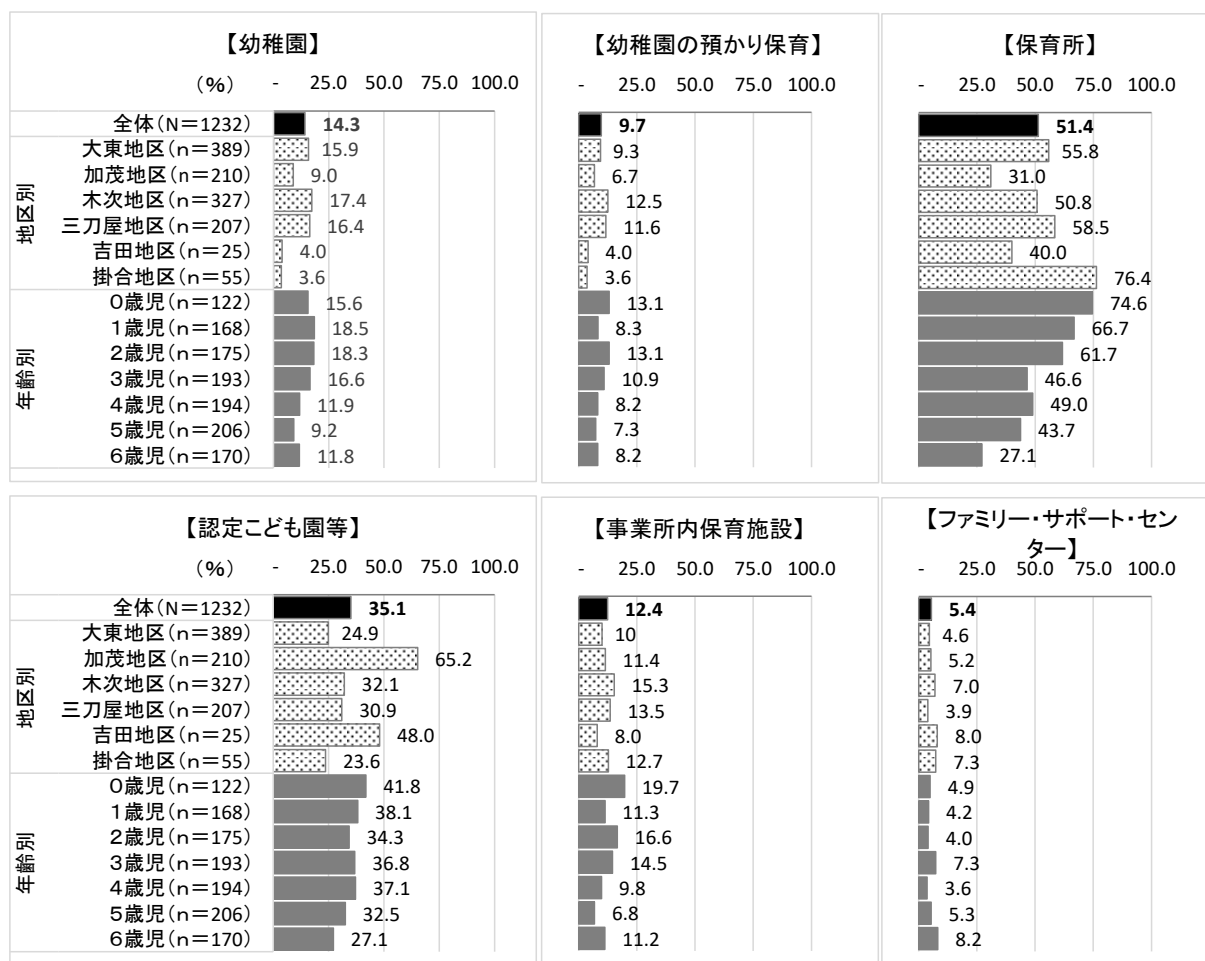
【今後利用したい支援施設・事業】



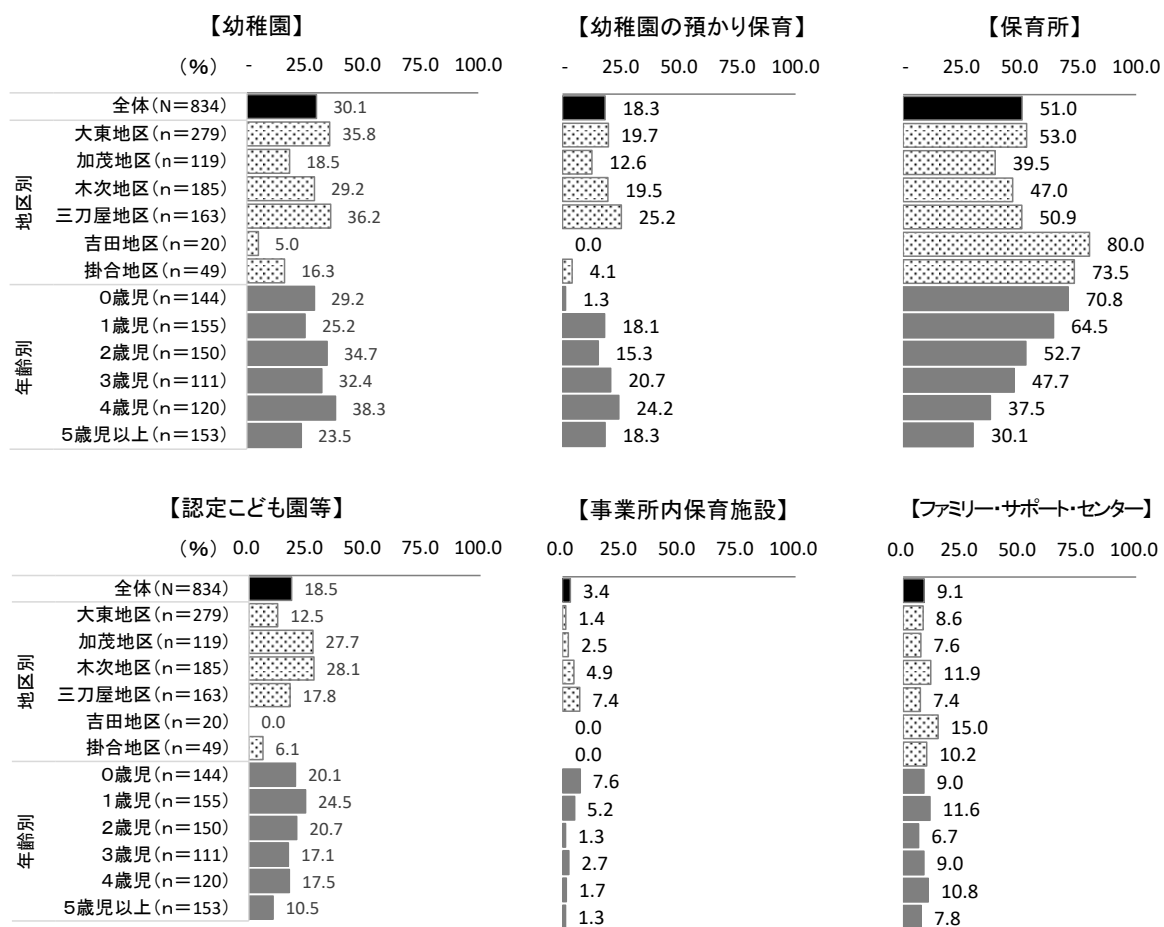
子育て支援施設・事業の今後の利用希望を地区別でみると、掛合地区では他の地区と比較して「保育所」のニーズが高く、加茂地区や吉田地区では「認定こども園」のニーズが高くなっており、前回調査後に市内各所で認定こども園への移行が進み、これに伴ってニーズが変化していることが伺えます。また、前回調査では「幼稚園の預かり保育」のニーズが 18.3%あったのが、今回は 9.7%に下がっていることから、一定程度の対応が進んだことが伺えます。

こどもの年齢別にみると、特に「保育所」では、0歳児～2歳児のニーズが高くなっています。また、「認定こども園」では、いずれの年齢でもほぼ同程度のニーズがみられます。

<今回調査結果>



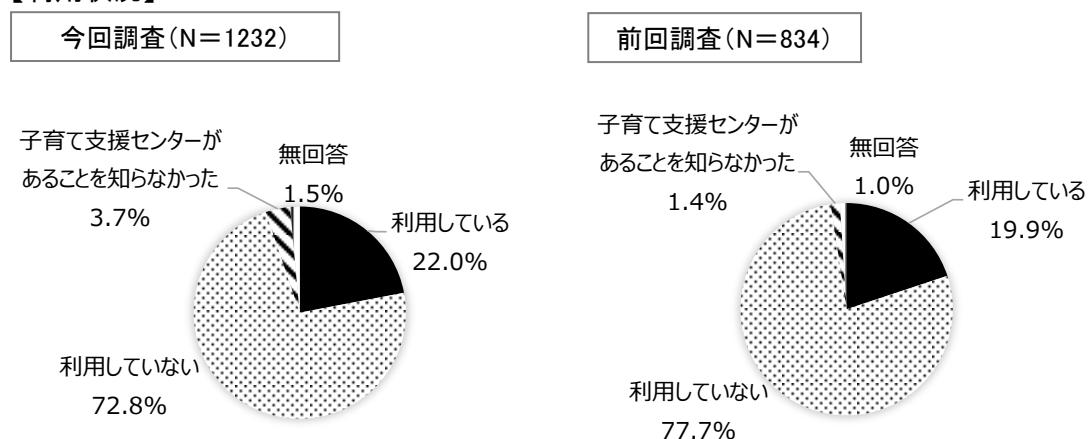
<前回調査結果>



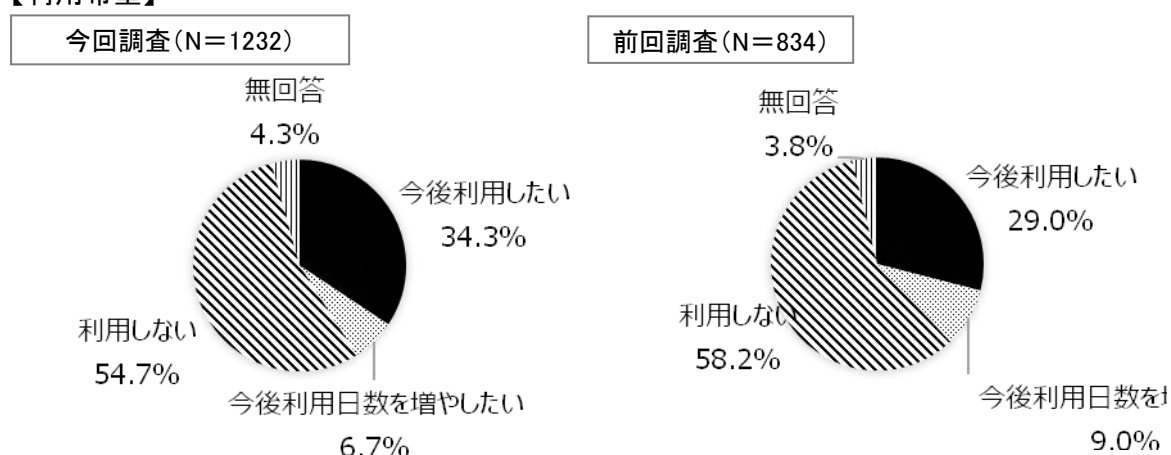
4. 子育て支援センターの利用について

就学前児童における、子育て支援センターの利用は約 2 割(22.0%)であり、「今後利用したい」という回答は 34.3%、「今後利用日数を増やしたい」が 6.7%で、合わせて約 4 割(41.0%)が利用を希望しています。前回調査から現在の利用も利用希望も増加しており、継続的な事業の充実が求められています。

【利用状況】

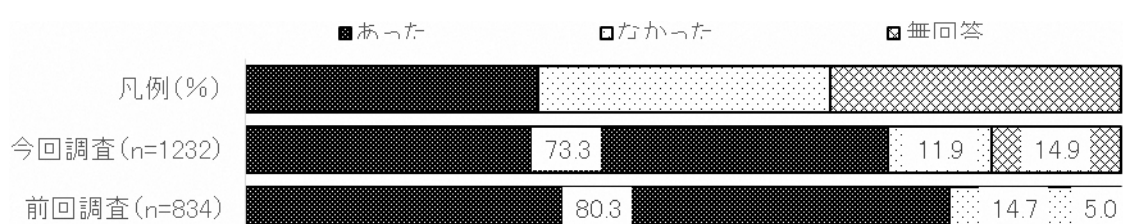


【利用希望】



5. 就学前児童の病気やケガの時の対応について

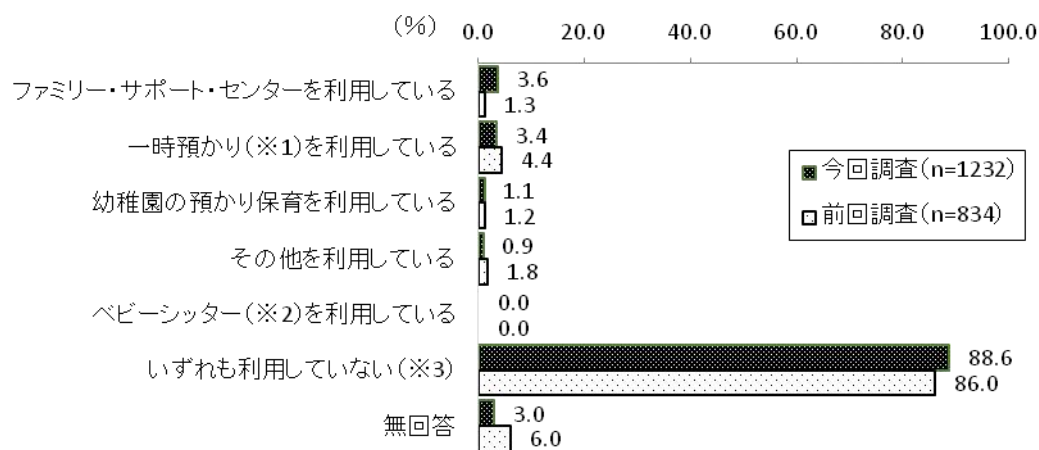
就学前児童の病気やケガで子育て支援施設を利用できなかった割合は 73.3%と高い割合ですが、前回調査(80.3%)より下がっています。



対応としては、母親が仕事を休んだり、親族・知人にみてもらったりして対処した人が多くなっています。前回調査との比較では、母親が仕事を休んだ割合がやや上昇し(前回:80.2%→今回:84.2%)、親族・知人にみてもらった割合がやや減少しています(前回:63.4%→今回:58.3%)。その時の病児・病後児保育の利用意向については、「病児施設」を利用したいと思った人が22.6%、「病後児施設」が16.4%で、合計で約4割(39.0%)のニーズがみられます。

6. 就学前児童の一時預かり等について

最近1年間に、私用や冠婚葬祭、保護者の通院や突発的な仕事などの理由で利用したことがある事業としては、「ファミリー・サポート・センター」が3.6%、「一時預かり」が3.4%などとなっており、「ファミリー・サポート・センター」の利用が、前回調査よりわずかに上昇していますが、大半は「利用していない」と回答しています。



※1 私用など理由を問わず、保育所などで一時的に子どもを保育する事業

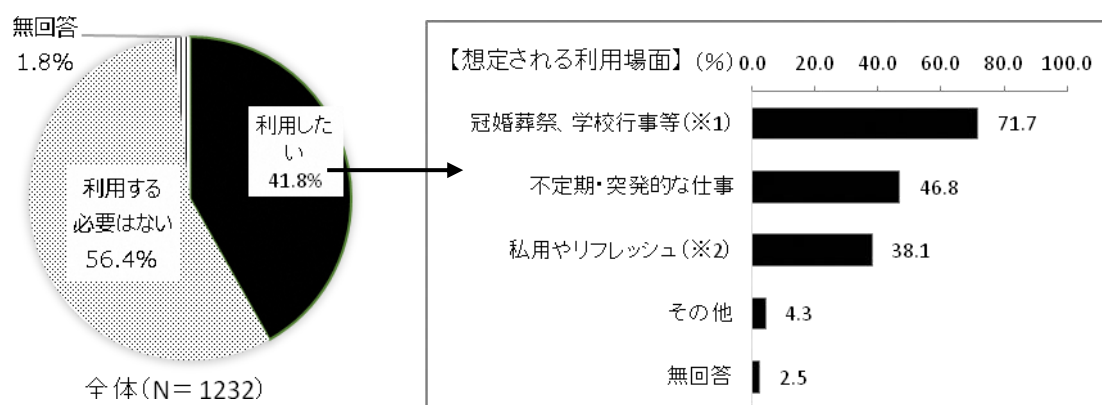
※2 通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期に利用する場合のみ

※3 預けられる親族や知人などがある

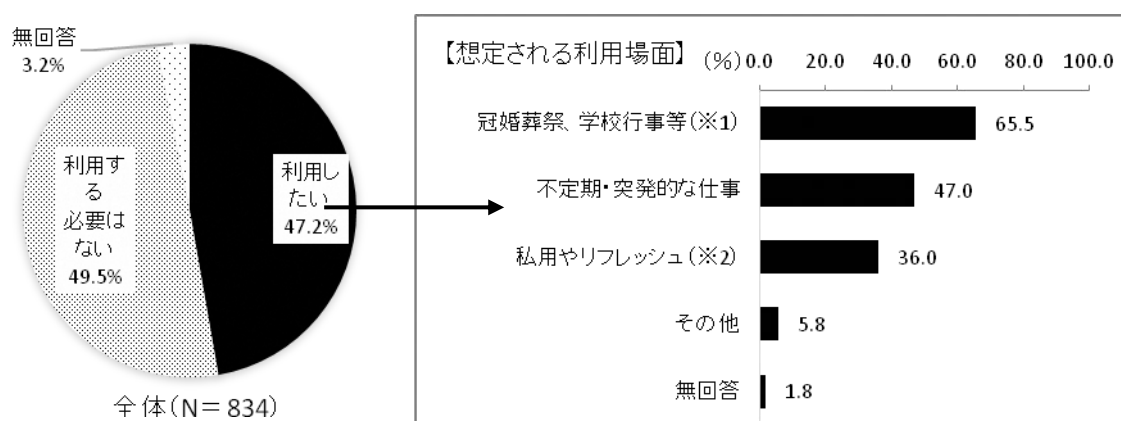
今後の利用希望は41.8%で、「冠婚葬祭・学校行事等」「不定期・突発的な仕事」「私用やリフレッシュ」などが利用場面として想定され、「小児科に併設した施設」「保育所や幼稚園に併設した施設」での利用が希望されています。

一時預かりは、現在の利用率は低いものの、今後の希望は高くなっており、さらなる周知と、より利用しやすい仕組みづくり、それに向けた体制づくりが求められます。

<今回調査>



<前回調査>



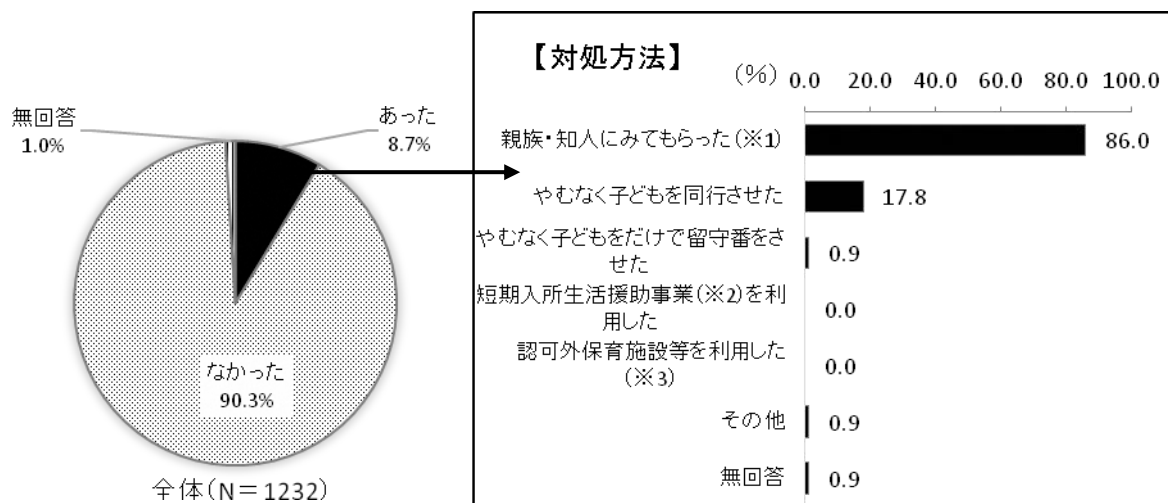
※1 冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等

※2 私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)やリフレッシュ目的

7. 就学前児童の宿泊を伴う預かりの状況について

最近 1 年間に、私用や冠婚葬祭、保護者の通院や突発的な仕事などの理由で、泊まりがけで家族以外の人にみてもらわなければならないことがあった割合は 11.8%で、その時は、親族や知人に子どもをみてもらって対処した人が多数を占めています。前回調査と比較しても、同程度の割合となっています。本市では「ショートステイ」や「トワイライトステイ」は未実施ですが、ニーズや社会動向などを鑑みながら、対応を検討していく必要があります。

<今回調査>

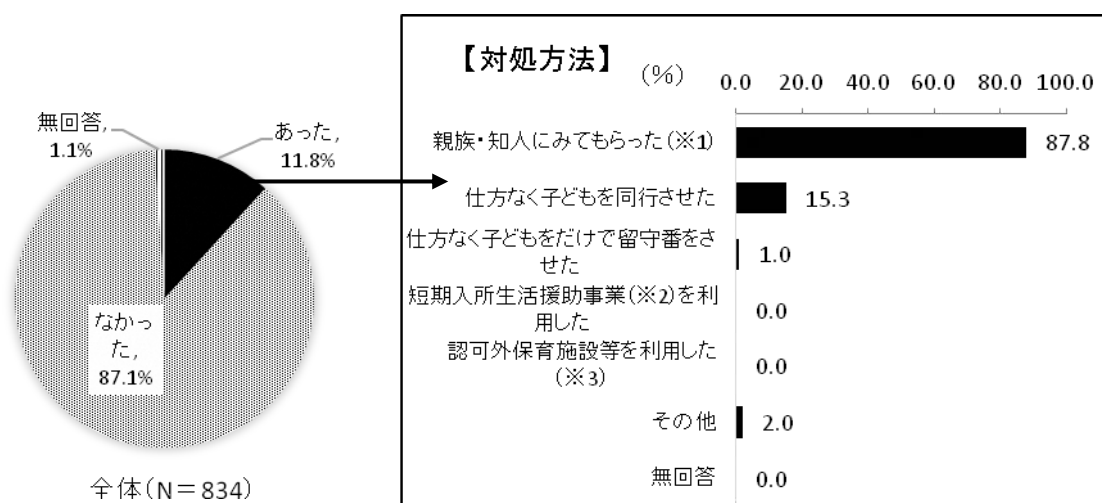


※1 親族・知人(同居者を含む)などに子どもをみてもらった

※2 ショートステイ

※3 認可外保育施設、ベビーシッター

<前回調査>

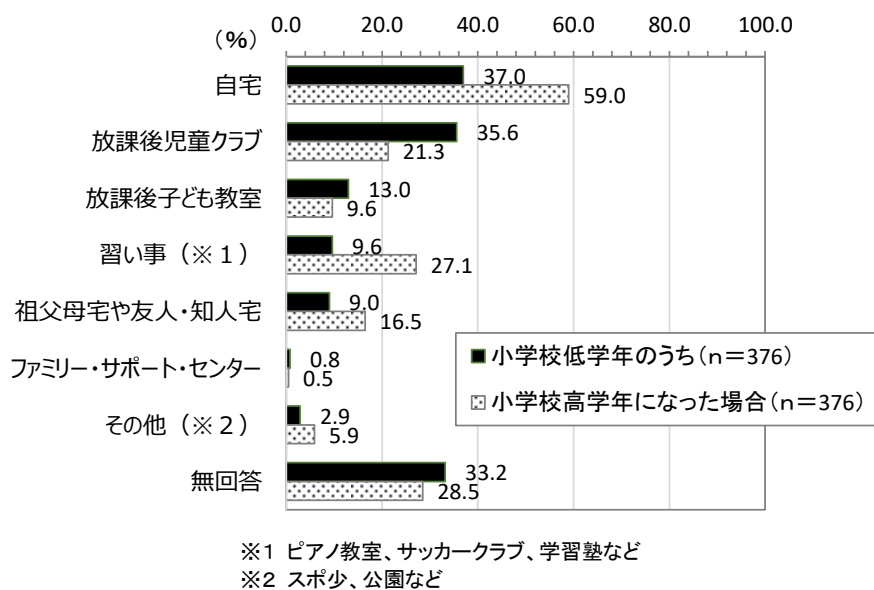


8. 就学前児童の小学校入学後について

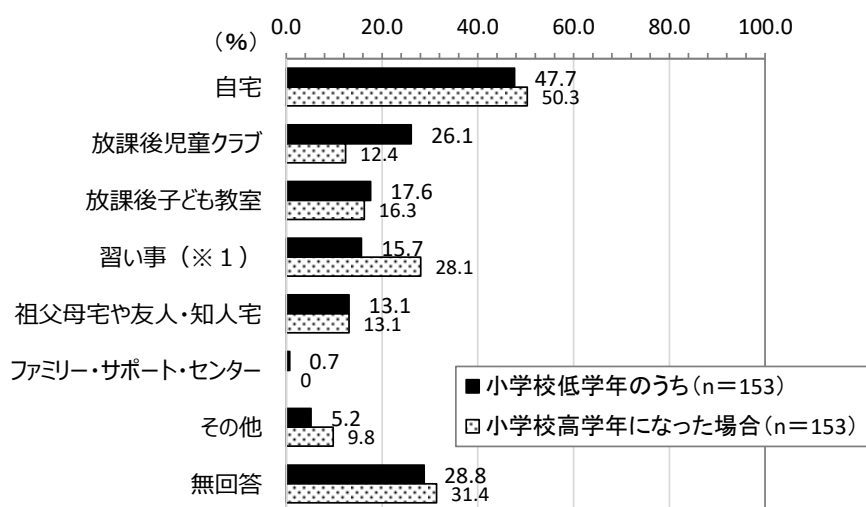
小学校低学年(1～3年生)のうち、自宅に次いで放課後児童クラブで過ごさせたい保護者が多く、前回調査からその割合がやや高くなっており、児童の受入体制が整ったことにより、保護者の利用意向が促されたことが推察されます。

高学年になった場合は、自宅に次いで習い事が中心となっています。

<今回調査>



<前回調査>

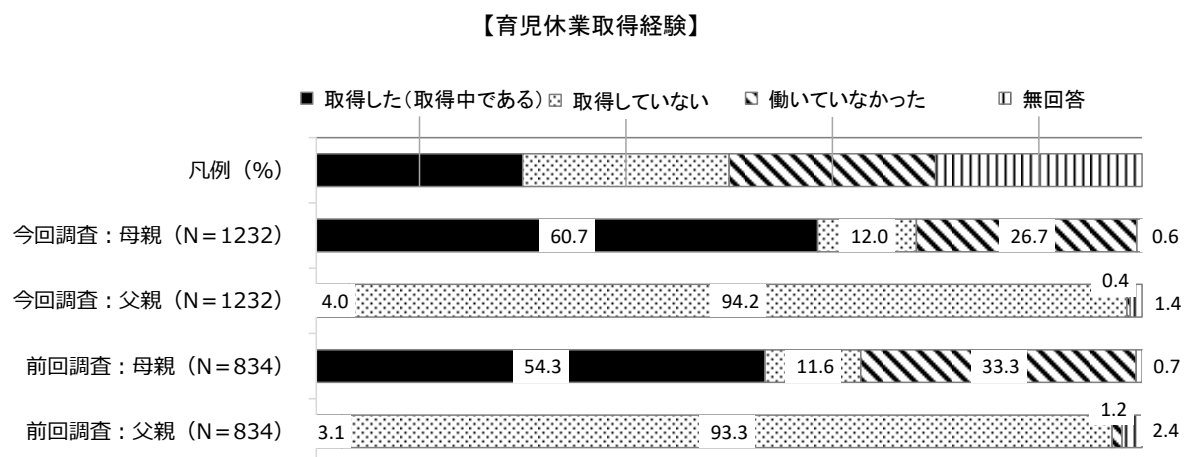


一方、小学校児童における、放課後児童クラブの現在の利用は26.1%であり、前回調査の18.5%からやや増加しています。土曜日の利用者は8.2%ですが、長期休業中の利用は83.7%と高くなっています。

小学校児童における、「放課後子ども教室」の利用については、現在「利用している」が20.8%、今後の利用希望が27.9%であり、いずれも前回調査からやや低くなっています。(前回「利用している」:26.6%、「利用したい」27.9%)

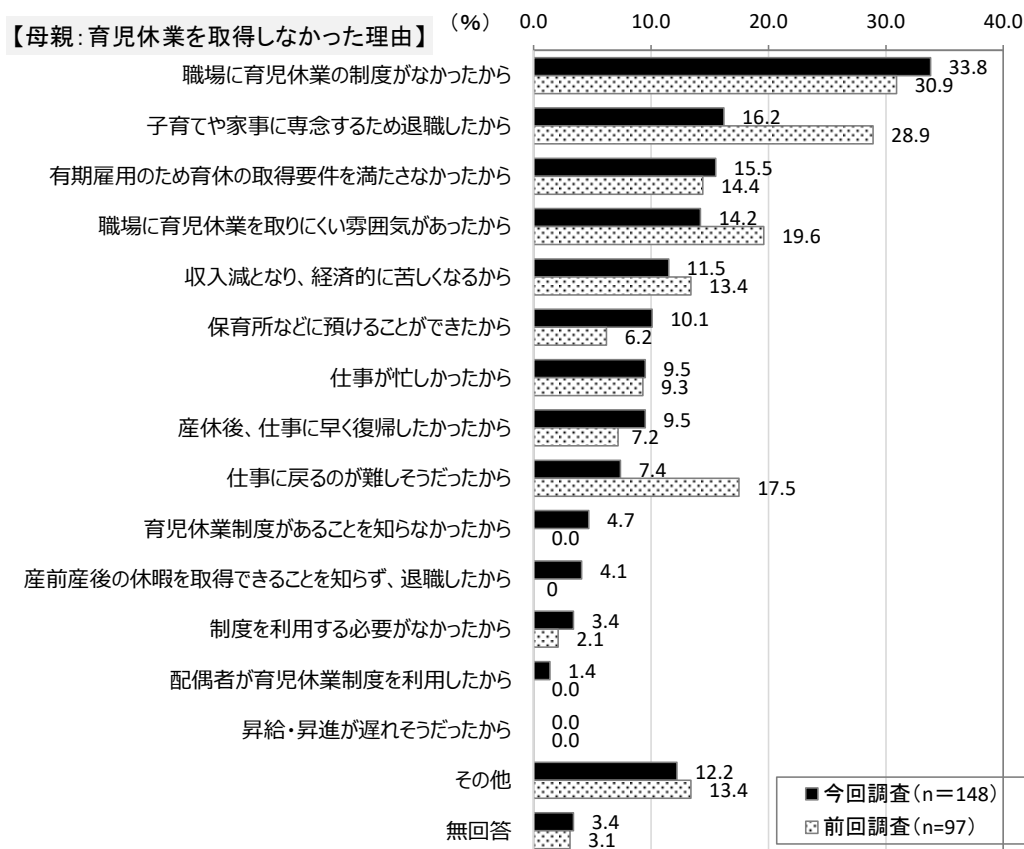
9. 育児休業制度の利用について

育児休業取得経験は、母親が60.7%で、前回調査(54.3%)よりやや上昇しています。また、育児休業を取得した母親の8割以上が職場復帰しており、同様に前回調査(77.0%)よりその割合が高くなっています。一方、父親の育児休業取得率は4.0%にとどまっています。



育児休業を取得しなかった母親は「職場に制度がなかった」「退職した」「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」といった理由をあげています。

前回調査と比較すると、「退職した」「仕事に戻るのが難しそうだった」という理由が減少しており、徐々に職場環境の改善が図られていることが推察されます。今後とも、事業所等への働きかけ等により、育児休業を取得しやすい環境づくりを整えていく取組みが求められます。



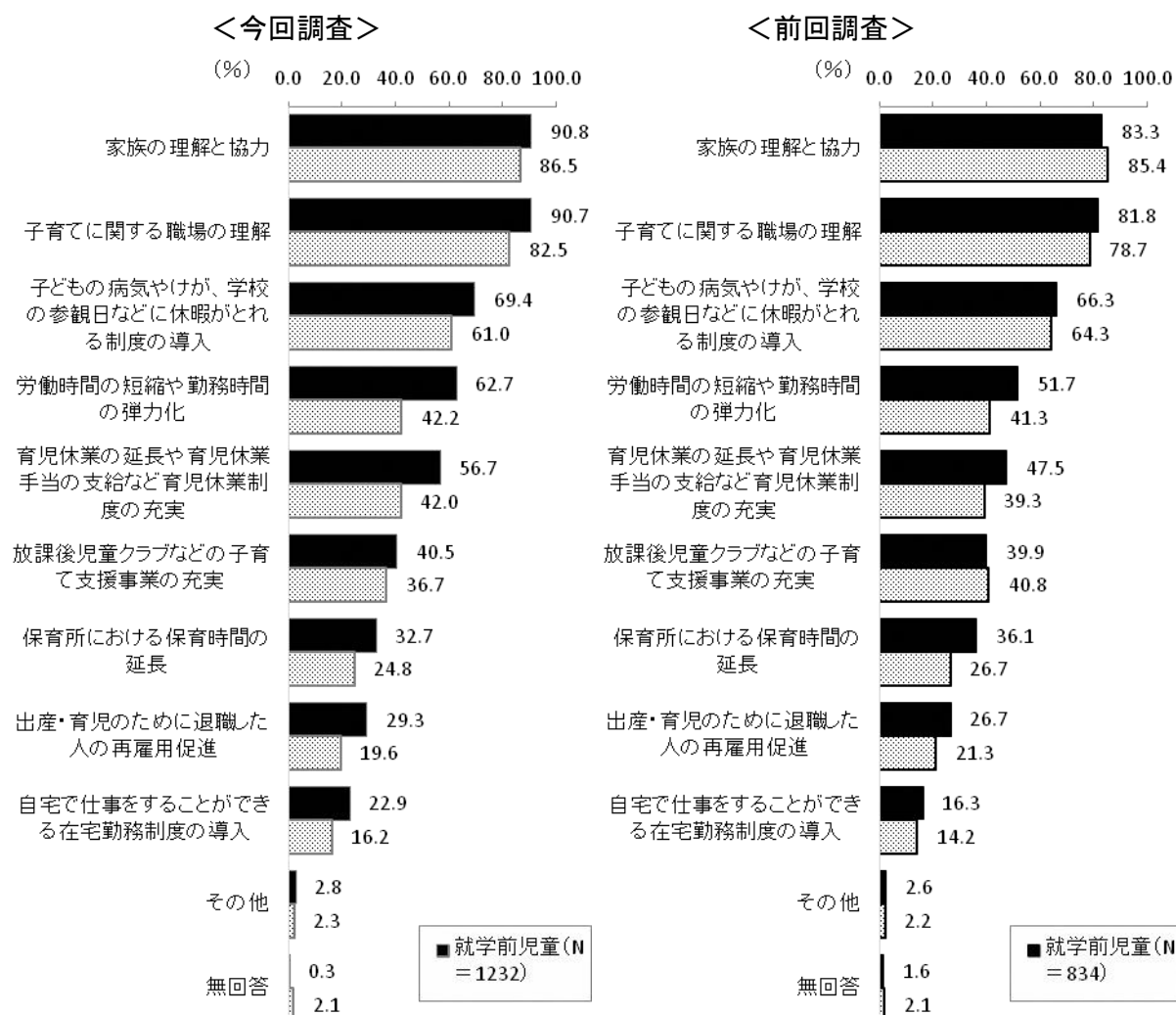
10. 子育て全般について

(1) 理想の子ども数について

就学前・小学校児童の保護者ともに、予定の(実際の)子ども数の方が理想の子ども数よりも少なくなっていますが、その理由としては、経済的な負担感、年齢や体質などから妊娠・出産が困難であること、仕事と子育ての両立が難しいこと、そして子育ての心理的・肉体的負担感などがあげられます。

(2) 仕事と子育ての両立について

仕事と子育てを両立させるために「家族の理解と協力」「子育てに関する職場の理解」「子どもが病気やけが、学校の参観日などに休暇がとれる制度の導入」「労働時間の短縮や勤務時間の弾力化」「育児休業の延長や育児休業中の手当の支給など育児休業制度の充実」などが求められています。



(3) 子育てに関する悩みについて

就学前児童保護者の悩みは、回答割合の高い順にみると以下の通りです。

「子どもとの時間を十分にとれないこと」(今回:31.7%、前回:36.9%)

「子どもを叱りすぎているような気がする」(今回:29.5%、前回:31.4%)

「食事や栄養に関する」(今回:27.3%、前回:28.1%)

「育児の方法(しつけなど)がよくわからないこと」(今回:24.2%、前回:27.0%)

小学校児童保護者の場合は、特に「子どもの教育に関する」と「友だちづきあい(いじめ等を含む)に関する」が、就学前児童を大きく上回っていることが特徴です。

このように、子育てに関する悩みは多岐にわたっています。また、前回調査と比較しても同様の傾向にあり、継続的な取組が必要です。

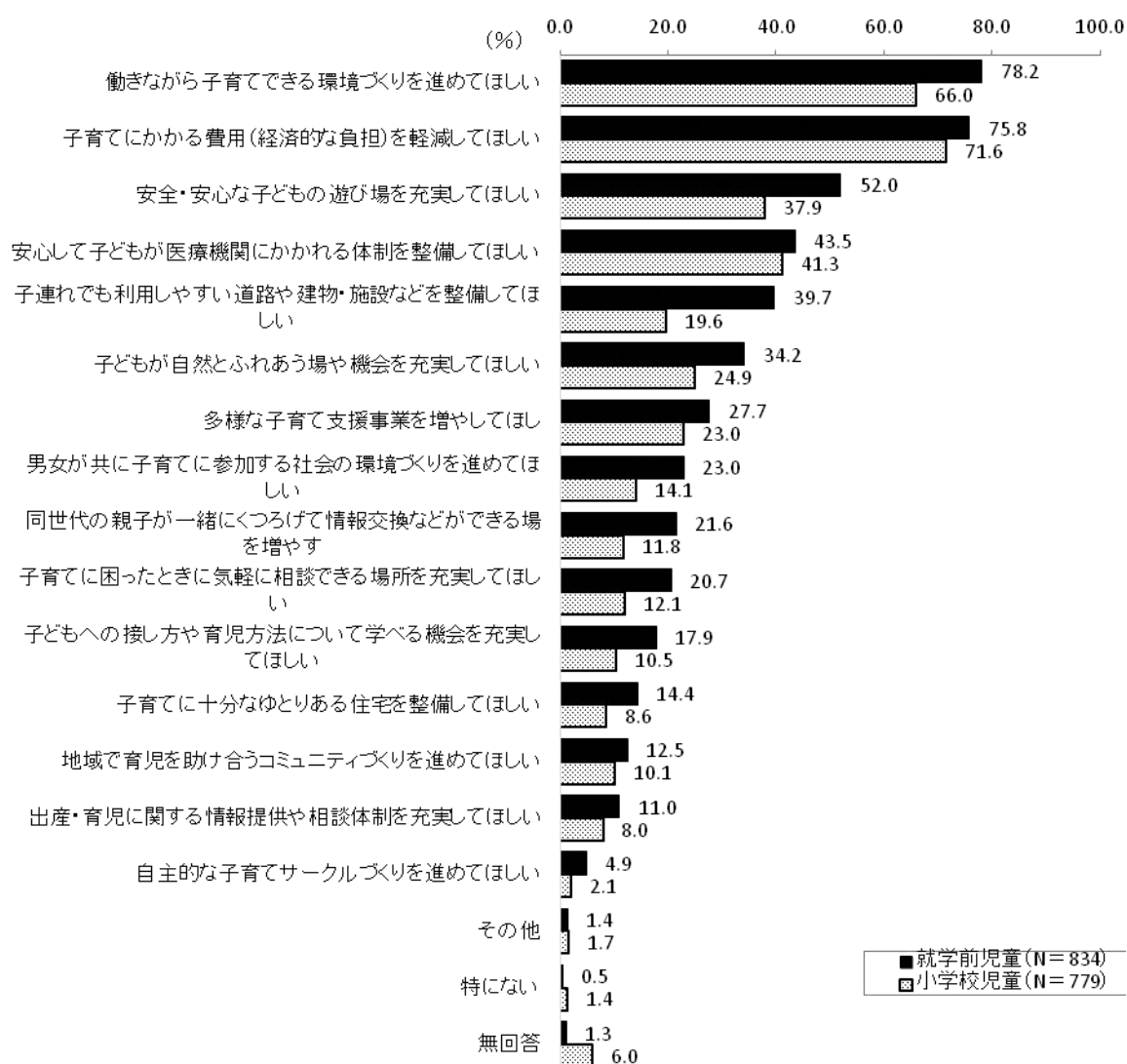
(4)子育てしやすい社会のため必要と思う支援策

求められる支援策としては、子育てにかかる経済的負担の軽減や収入の確保など、経済的理由が最も多く挙げられました。また、職場環境の改善や、子どもの遊び場の確保や安心安全な環境整備など、地域社会の各場面において、子育てしやすい環境づくりが求められています。

<今回調査>



<前回調査>



【2】関係団体ヒアリング調査回答

1. 子育て環境の現状

【設問】市内の子育て環境について、現状をどのように感じていらっしゃいますか。ご意見・ご感想を自由にお書きください。

保育所・保育園	《就労の変化》 ・ 保護者の共働きが増え、就労形態も多様化し、土曜・日曜・祝日の就労も増加。また、早い段階から保育所入所を希望する傾向にある。 《家庭の変化》 ・ 祖父母も働いており、かつてのように祖父母が子どもをみる機会が減少。 ・ 母親の就労による多忙さ、少子化、子育て経験不足、子育ての孤立化などにより、家庭での子育てが難しさを増している。 ・ 基本的な生活習慣を身に着けさせる親の意識が希薄化。「子育て支援サービスを買う」という感覚が増えてきている。 《地域の変化》 ・ 市外からの移住者、外国の方、シングルマザーも増加しており、子どもたちの支援と共に、保護者支援も求められている。 ・ 住宅団地の造成が進んだことで、市営のアパートや住宅へ入居する若い世代が増加。三世帯同居が減少。
認定こども園	《地域の特性》 ・ 自然環境が豊かで、地域の方も協力的。 《園児の減少》 ・ 最近では保育ニーズが高く、幼稚園の存在が薄れている。幼稚園や幼稚園型認定こども園は園児が減少。 《保護者支援》 ・ 保護者支援が必要になっている。
幼稚園	《子育て支援のための多様な環境整備》 ・ 保護者が子どもを施設に「預ける」選択肢は多様化し、環境は整ってきた。 ・ 保護者は土曜・早朝・延長保育を求めているが、対応できる職員数が確保できていない。 ・ 幼稚園では0～2歳児の受け入れがないこと、これに伴う兄弟との関係により、入園児が減少。
子育て支援センター	《子どもへの支援の必要性》 ・ 子育てする親や家庭に対しては支援が充実しているが、子ども自身への直接の支援、子どもに関われる取組みは不十分。 ・ メディアの発達が子育てに与える影響が心配される。 ・ 幼稚園児の減少。核家族化の進行。
放課後児童クラブ	《社会環境・家庭環境の変化と対応》

ブ	・ 核家族の増加、遊び場の減少、テレビやゲームに依存する子どもの増加などにより、学童保育の必要性が一層重要になっていると感じる。 ・ 保護者の就労が進み、祖父母も就労や高齢化、自らの時間を楽しみたいなど、今後一層子育て支援の必要性が増すと思われる。 ・ 世帯構成の変化や保護者の共働き、核家族化など子育て家庭の変化には政策を含め対応が進みつつあると感じる。その反面、子育て環境・子どもの育つ環境が画一化されているのではないかと感じることもある。
---	--

2. 子育て環境に関する成果と課題

【設問】この 5 年くらいの中での「子育て環境について良くなった点」や「課題」など、ご意見・ご感想を自由にお聞かせください。

①良くなった点

保育所・保育園	《子育て支援施設・事業など環境整備》 ・ 保育料軽減や医療費の無償化、子育て支援センターの充実、平日・土曜日とも保育時間の延長、一時預かりなど、保護者ニーズに合わせた支援が充実し、利用者も増えた。 ・ 保育所への看護師の常駐により、保護者の安心感が高まった。 ・ 子育て支援施設が充実し、気軽に相談できる場所や機関が整った。 ・ 市内中心部では、子育て支援機関が充実し、市外への流出に歯止めの役割を果たしているのではないかと感じる。
認定こども園	《専任園長の配置》 ・ 小学校との兼務園長が解消され、園長が現場で対応することが可能になった。また、教育に関して意識が高まっている。
幼稚園	・ 保育所が増加し、幼稚園の預かり保育がスタートするなど、子育て支援が充実した。
子育て支援センター	《社会環境の整備》 ・ 道路整備により出かけやすくなったこと、子どもに関わる支援機関が設置されたこと、医療費・保育料補助が充実するなど、環境が整備された。 ・ 松江市や出雲市と比べて、雲南市は施設やイベントが多様であり、保育所への入所など、子育てしやすい環境が整っている。 《子育て支援センターの充実》 ・ 子育て支援センターは年々良くなり、利用者も増加。地域を越えて参加している。親同士のつながりは増えているように感じる。 ・ 子どもの利用年齢がかつては 2～3 歳が中心だったのが 1 歳未満中心に変化した。保育所入所年齢が下がったためと思われる。
放課後児童クラブ	・ 政策・制度を含め保育サービスが充実し、安心して子育てと生活が両立する環境が整いつつある。保育サービスが不可欠な存在になっている。
ファミリー・サポ	・ 子育て支援センターの場所を利用できることにより、ファミリー・サポート・セン

ート・センター	ター事業の利用が増えている。
---------	----------------

②課題

保育所・保育園	《保護者への子育て支援》 ・ 保育園での預かりが充実する一方で、親が子どもと触れ合う時間、遊べる活動を工夫する必要がある。保育所や子育て支援センターに頼りすぎる傾向になっている。 ・ 制度や事業を利用できない人や家から出にくい人へのフォローが必要。 《保育所等への入所及び運営》 ・ 保護者が育休を取得できない職場環境がある。また、0歳から預けなければ入所できないという理由から、0歳で保育所に預ける傾向にある。 ・ 一時保育は利用が多いが、通常入所児への影響やスタッフ配置など対応が求められる。 ・ 山間部では、保育所や認定こども園などの維持が困難になっている。
認定こども園	《0～2歳児の預かり希望》 ・ 認定こども園は増えつつあるが、0歳～2歳児の預かりができないなど、保護者のニーズに十分に対応できていない。 《家庭の養育力低下》 ・ 家庭における子育ての養育力が低下している。
幼稚園	《保護者の安定へのサポート》 ・ 保護者自身が不安を除いて安定することが重要であり、保護者の話し相手・相談相手としての役割も大きくなった。
子育て支援センター	《総合的な支援の必要性》 ・ 事業の枠でとらえると対処できない個々のケースが生じている。 ・ 医療機関の充実が求められている。
放課後児童クラブ	・ 保育サービスが不十分な地域や、サービスが行き届かない世帯が子育てに困難さを抱える環境にもなっている。 ・ 以前より、緊急時連絡・見守り用の携帯を持っている子どもが増えた。
ファミリー・サポート・センター	・ ファミリー・サポート・センター事業の利用はあるが、限られており、情報提供が必要。

3. 地域的な問題点や課題

【設問】貴施設が所在する地域のことについておうかがいします。地理的条件、人口の動き、少子高齢化、交通事情その他の社会的条件等、教育・保育事業を進めるにあたっての地域的な問題点や困っていること、また課題などはどのようなことですか。

保育所・保育園	《保育所・幼稚園・認定こども園等の入所や選択について》 ・ 入所に年齢制限があると、兄弟が同じ施設に入れないことが生じる。斐伊地区は職場・交通・児童クラブ・保育所なども集積しており、一か所にまとめた
---------	---

	園ができると、安心して入所いただけるのではないかな。 ・ 保育所のニーズは高まっている一方で、幼稚園・幼稚園型認定こども園では園児が減少している。幼稚園の良さ、保育所の良さを明確にした選択肢を保護者に提示する方がよいのではないかな。 ・ 市外(松江市)からも入所の希望があり、受け入れてほしい。 《地域を活かした保育》 ・ 地域との交流を大事にしており、地域の方に協力いただいているが、職員の負担とのバランスを取りながらやっていきたい。 ・ 耕作放棄地や管理が行き届かない野山が増え、散歩コースが減少。
認定こども園	《幼稚園・幼稚園型認定こども園の選択》 ・ 0歳～2歳児の預かりができない幼稚園や認定こども園は、保護者の就労に加え、兄弟が別々の園になるため、入園児が少なくなる。
幼稚園	《幼稚園入園児の減少》 ・ 地元の幼稚園や小学校が小規模で子どもが少ないことから、市の中心部にアパートを借りて保育所を選択する保護者もいる。 ・ 少子化、保護者の仕事の都合により、幼稚園の園児数は減少している。
子育て支援センター	《核家族化の進行、母親の就労促進による保育ニーズの高まり》 ・ 世帯分離や核家族化が進み、家庭で子育てに関わる大人が少なくなる。 ・ 母親の就労率が上昇し、保育ニーズが高まり、保護者の時間的ゆとりが減少。そのため、親同士、地域でのつながりが希薄になりがち。 《子育て支援センターの利用》 ・ 子育て支援センターは、車で行きやすく、遊べる環境が整っているため、利用者には喜ばれている。 ・ 逆に、少子化の進む地域では、子育て支援センターの利用は減少している。しかし、相談など重要な窓口となっており、必要な機能。
放課後児童クラブ	《立地》 ・ 学校の授業数の増加や送迎時間などにより、施設での滞在時間が減少。 ・ 学校が近く、親も安心。 《長期休暇中に利用が集中》 ・ 共働き家庭の増加もあり、夏休みに利用が集中。学校児童の減少によりPTAも減少して監視のローテーションが十分に回せず、学校プール開放日が減少。 《既存施設を利用した学童保育事業》 ・ 将来の子ども的人数などを考慮して施設に投資しづらく、既存施設の活用にとどまっている。併設する施設利用の駐車場など安全面で課題。
ファミリー・サポート・センター	《施設を活用した預かり利用》 ・ 木次子育て支援センターを利用した預かりが増加。家庭でみるより安心。 《援助会員不足による対応》

	・ 援助会員が少ないため、保育所や児童クラブの職員が個人的に援助会員として対応。
病児・病後児保育室	・ 認知度が低く、利用する人が限られている。また、新しいサービス利用に不安を感じる保護者もあるようだ。

4. 保護者の事業に対するニーズ

【設問】保護者の事業に対するニーズ(施設や事業に対する要望等)についておうかがいします。保護者は貴施設に対して、どのようなことを求めていますか。また、ニーズに対してどのように対処していますか。

保育所・保育園	《子どもの様子を伝えてほしい》 ・ 感染症やケガには迅速に対応している。また、便り等で細やかに情報発信している。送迎時に担任から子どもの様子について伝達している。 ・ 発達にあわせて体験、学びを提供し、個別の連絡帳で保護者に伝える。 《求める子ども像の共感》 ・ 保育所の方針に共感、協力いただいている。 《安全・安心な施設》 ・ 園舎の床のささくれが刺さって危ないので、張替えを希望。 ・ 施設が老朽化しており、人数に対して部屋も狭い。 《保護者活動の負担軽減》 ・ PTA行事として実施している園庭の草取りの負担を訴える保護者もいる。 《子どものしつけ》 ・ 子どものしつけ、基本的習慣に関することを園に求める傾向が強くなっており、要望が多い。面談やアドバイスにより、親と保育園と一緒に子育てするよう働きかけている。
認定こども園	《0～2歳児、延長保育、土曜保育》 ・ 保育時間、土曜保育についても充実しており、ニーズに応えている。 ・ 0歳～2歳児の保育、土曜保育について、要望が多い。 《質の高い教育保育》 ・ 幼稚園のような質の高い教育保育を期待。 ・ 異年齢との関わり、小規模園の良さを活かした意図的、計画的な保育。 ・ 私立園で実施するような教育課程外のサービス導入。これに対して、運動遊びや園外活動を充実し、園だよりなどで取組みを保護者へ情報発信。
幼稚園	《預かり時間の延長、年齢の引き下げ》 ・ 認定こども園化による18時までの預かり、長期休暇中の預かり。 ・ 現在は3歳～5歳児の預かりだが、3歳未満児の預かり。 ・ 保護者のニーズと子どもの育ちとの不一致。
子育て支援センター	《子育て支援センター利用者のニーズ・利用動機》 ・ 子育てのノウハウを学びたい。(ベビーマッサージ、育児、遊び方、離乳食、

	歯のケアなど) ・ 安らぎの場。親子で安心して過ごせる場所。リフレッシュ。(ママ友。) ・ 同年齢の子どもと過ごしている自分の子どもを見たい。 ・ 家庭ではできない遊びの提供。 ・ 相談受付。 《土曜日開所・一時預かり》 ・ 土曜日開所や一時預かりの希望がある。⇒土曜日については代替施設を紹介し、一時預かりについては代替策で対応。 ・ 土曜日の午後開所を一昨年からスタートしており、利用者から喜ばれている。日曜日の要望があるが、職員対応が難しい。
放課後児童クラブ	《遊びの充実》 ・ 放課後、家ではテレビやゲームばかりするので、学童で体を動かす遊びをしてほしいという希望がある。保護者からは理解いただいております、外で元気に遊ぶことを喜んでもらっている。 ・ テレビを見せないでほしいという要望があった。⇒外遊びや絵本の読み聞かせ、カードゲーム遊びなどを行っている。 《長期休暇中の開所前預かり》 ・ 夏休みなど、開所時間前からの預かりを希望される。その際は、スタッフを配置して対応。
ファミリー・サポート・センター	・ 保育所に入れない現状の人が利用。料金が高いため短時間利用。 ・ さくら教室の送迎は喜んでいただいている。
病児・病後児保育室	《病後児保育利用手続きの簡素化(医師の意見書)》 ・ 病後児保育利用の手続きがハードルになっており、病後児保育利用を勧めても、一般保育を利用し、再発するケースもある。

5. 子育ての不安や悩み

【設問】貴施設の活動において、参加者や利用者から、よく話に出る子育ての悩みや不安としては、どのようなことがありますか。

子育て支援センター	・ 食事に関すること。(離乳食。好き嫌い。) ・ 成長・発達のこと。(他の子どもとの比較。特に第1子の悩みが深い。) ・ 家族関係。(嫁姑問題。祖父母との考え方の違い。) ・ 就業に向けて、保育所への入所に関すること。 ・ 育児不安、心の悩み。
放課後児童クラブ	・ 放課後児童クラブでの悩みはあまり聞かない。 ・ 小学校での悩みや不安を保護者から聞くことがある。 ・ いじめられている、怖がっている相談があった。⇒話し合いをしたり、保護者や担任に伝え見守っている。 ・ 児童クラブ内での友達関係。⇒支援員で情報共有し、見守った結果、仲良く

	遊ぶようになった。
病児・病後児保育室	・ 利用したくても、料金がなくてやめてしまう。

6. 運営上の課題

【設問】現在、貴園（所）、貴施設における運営上における課題があれば、お聞かせください。また、その課題解決のために、どのような対処が望まれると思いますか。

保育所・保育園	《施設の老朽化対策・拡張の必要性》 ・ 人数を収容できる大きな部屋を希望。 ・ 地盤沈下しており、床が傾いている。全体的に根本的な対策が必要。 《運営とスタッフ配置》 ・ 土曜保育を利用する子どもが増えている。調理師と保育士が出勤すると平日に振替休日となり、そこをパートで対応する。今後、土曜保育が無料になると利用が増えることが予想され、ニーズに応じていくと平日保育に無理が生じるのではと懸念している。 ・ 事務作業が多く、保育士の負担が大きい。それに見合った処遇でもない。 《人材確保と人材の質の向上》 ・ 正職員の増加を希望。 ・ 新卒を募集してもなかなか応募がない。中途採用も難しい。 ・ 保育士の 1 年目が大事。一緒に指導してくれる先輩保育士を付ける余裕のある体制を取りたい。 ・ 人材育成が課題。国の処遇改善Ⅱを活用してエルダー制を導入予定。 ・ 職員同士が親しく楽しめる機会を設け、チームワークを向上させたい。
認定こども園	《土曜保育の対応と職員処遇改善》 ・ 土曜保育の利用者が多く、職員が対応すると普段の保育に支障がある。 ・ 臨時職員の確保のために処遇改善、賃金の見直しが求められる。 《外部行事が多い》 ・ 外部との行事対応が多く、子どもが主体的に遊ぶ日々の保育が不十分。地域の方とも話し合い、理解を得る必要がある。 《特別支援の充実》 ・ 特別な配慮が必要な子どもが増えている。特別支援の充実が必要。
幼稚園	《少人数による子どもへの影響と保護者負担》 ・ 少人数であることから、子ども同士のかかわりが制限される。子ども数の増加や交流の実施が大切。 ・ 園周辺の環境整備に保護者や地域の協力を得ているが、保護者数が減少し大きな負担になっている。 《代替職員の円滑な確保》 ・ ブロック配置講師と預かり保育が兼務となっており、預かり保育実施日には

	担当者が兼務園から移動するため負担が大きい。
子育て支援センター	《利用のしやすい場所の確保と選定》 ・ イベント時など、近くの施設に協力を依頼しているが、理解に乏しい。 《運営費の確保》 ・ 法人規定で運営すると、委託料が不足する。受託事業の見直しもしくは委託料基準の見直しが必要。単独の受託事業では赤字の状況。
放課後児童クラブ	《十分なスペースの確保》 ・ 施設が狭く、夏休み期間中の対応に苦慮している。 ・ 雨天時の遊び場スペースがない。 《障がい児対応》 ・ 障がい児を預かっているが、保護者から医師の診断書が出されておらず、助成金の加配を受けることができない状況。 《人材確保・質の向上》 ・ 人材確保(特に有資格者)が難しい。令和2年度から資格取得が義務付けられており、職員の資格取得を進めている。 ・ 職員がアルバイトベースでなければ運営が成り立ちにくい。そのため、職業として選択できず、職業として成り立たないと質の向上につながらない。 《運営費管理》 ・ 運営費(委託料)の予算管理と収支決算処理事務が非常に難しい。
ファミリー・サポート・センター	《事業の周知》 ・ ファミリー・サポート・センター事業を知らない保護者もいる。病院や施設にポスターを掲示して、事業の周知を図る。 《援助会員の確保》 ・ 援助会員が少ない。保育所の職員が会員として登録し、対応している。 ・ 冬季の運転や病気のサポートは難しい。 《予算不足》 ・ 予算も不足している。
病児・病後児保育室	《職員確保》 ・ 職員確保(特に看護師)が必要。ウイルス性の子どもを確保する部屋は整っているが、スタッフがいない状況。

7. 今後、取組むべきこと

①保育所・保育園、認定こども園、幼稚園

【設問】今後、貴園(所)が子育て支援として積極的に取り組んでいくべき施策や事業は、どのようなことだと思いますか。

保育所・保育園	《保護者ニーズへの対応》 ・ 施設の改修により部屋を拡充し、保護者の入所不安へ対応が必要。 ・ 保護者と対話し、保護者ニーズへの対応。情報発信。
---------	--

	《保護者と子どもが共に楽しめる活動の提供・保護者支援》 ・ 土曜日・日曜日に、保護者が子どもと一緒に楽しめる親子活動。子どもも親も一緒に楽しめる仕掛けづくり。 ・ 保護者が育児の早期から子育て仲間をつくり、基礎知識を共有できる支援。困りごとを発信できない保護者を支援することも必要。 《保護者支援のスキルアップ》 ・ 保育士は保護者対応に苦慮している。親に伝える能力、技術が必要。実態に沿った保護者支援が求められる。 《一時保育の提供》 ・ 一時保育の制限を、月に12日から20日程度に増やせないか。母親の出産や求職活動で必要な子どもへ安定した保育の提供が求められる。 ・ 一時保育受け入れ可能な職員体制。 《病児・病後児保育》 ・ 病児・病後児保育受け入れの体制の拡充。ニーズはあると思う。複数園で保育士や看護師のローテーションを工夫すれば可能ではないか。 ・ 需要はあっても利用に至っていないケースが想定され、対応が必要。 《気になる子への対応》 ・ 気になる子が増えており、保護者支援も含めて丁寧な対応が求められる。 《関係機関(他園、小学校、行政等)との連携強化》 ・ 関係機関との意見交換やケースの学習、悩みを語り合ったりすることが必要。心配な子は行政に入ってもらう必要がある。保健師さんの協力など、支援の必要な家庭に対して各機関が連携した対応が求められる。
認定こども園	《保護者支援》 ・ 保護者の子育て支援。相談相手、話し相手として保護者同士のつながりづくり。 《土曜保育の実施》 ・ 土曜保育を実施。給食提供が必要だが、弁当で対応。
幼稚園	《認定こども園化》 ・ 認定こども園化による入園児の確保。 《保護者支援》 ・ 保護者との連携を深め、担任が保護者の悩みを聞いたり、相談にのったりと家庭支援をしていくことも大切。

②子育て支援施設

【設問】貴施設の事業に、もっと多くの子どもや親子に参加してもらうために(または利用してもらうために)どのような取り組みが必要だと思いますか。

子育て支援センター	《取り組みの周知》 ・ 子育て支援センターの取り組みを知ってもらう。保健師さんや母子保健推進
-----------	--

	員さんの赤ちゃん訪問の際、紹介していただいているので訪ねてくれるお母さんが増えている。定期健診の際にも積極的なアピールが求められる。 《相談・講習》 ・ 相談受け入れ体制の充実。子育て相談や悩みについて様々な相談がある。栄養や病気など、専門的な栄養士、助産師、歯科衛生士などが定期的に巡回すると利用も増えるのではないかな。 ・ 子どもの理解に関わる講習会の充実。 《開所形態・場所》 ・ 開所形態の拡充と柔軟化。（多様な曜日、日時での支援活動を可能にする開所形態の整備） ・ 場所の確保と選定。 《総合的な支援》 ・ 事業による対象者制限のない総合的な子どもの育ちへの支援。
放課後児童クラブ	《スペース・スタッフの確保》 ・ 受入れ施設の整備・拡充が必要。学年・年齢に応じた過ごし方ができるスペースと対応できるスタッフ確保が必要。
ファミリー・サポート・センター	・ 近くに預ける環境（場所）があれば、ニーズが増えると思う。 ・ 利用者と援助会員とで事前打ち合わせなどを行うので、ある程度時間に余裕をもって申し込んでいただくことが必要。 ・ 援助会員の確保が必要。お願いできそうな人に声をかけている。
病児・病後児保育室	・ 病児・病後児保育の利用方法には詳しい説明と周知が必要。 ・ 料金を安くするといったと思う。

8. 児童虐待について

【設問】過去 5 年間に児童虐待について、疑われる事例はありましたか。その際、どのような対応をされましたか。また、困ったことはありましたか。

保育所・保育園	《ネグレクト》 ・ 保護者が十分に育児できていない状況にあったため、日々のノートや口頭での確認、保育所で体を洗ったり食事もうけを付けた。保育所入所前から保健師さんが対応し、専門機関と連携。保護者との連携と適切な育児を継続する支えが必要。注意深く観察して見守っていく必要がある。 《問題を抱える保護者》 ・ いろいろな問題を抱える保護者が年々増えている。一時保育園で対応できないケースも増加。保健師さんはじめ、各専門のパーソナリティとのチームで対応している。 ・ 熱性けいれんから障がいが残った子どもについて、行政・病院医師・保健師と連携して保育園側の対応を検討。親の理解力と判断力が低いと感じられたため、どこまで踏み込むか難しい。細やかなやり取りを繰り返した。
---------	---

	《児童虐待》 ・ 子どもと接していても子どもは必死で生きており必死で隠す。SOSが出た時はできる限りの対応はするが、保育園の気づきだけでは限界がある。 ・ しっかりした証拠が出て来ないと 110 番できない。どの時点で報告を上げるのか難しい。
認定こども園	《関係機関との連携による対応》 ・ 家族の困り感を受けて「すワン」に相談。スムーズに連携をとり、家族の安心感につながった。
放課後児童クラブ	・ 小学校担任、校長、教頭、スクールソーシャルワーカー、子ども政策課など情報共有し、両親の気持ちが児童に向くように支援。

9. 雲南市の今後の取組み

【設問】雲南市は、これからどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。

保育所・保育園	《人材の確保・育成》 ・ 保育士を3年ぐらいかけて育てる財政的支援があると望ましい。 ・ 保育士が中山間地域で働きやすい条件整備。就労条件としては、松江市や出雲市より劣るので、保育士を獲得する何らかの対応が必要。 《幼稚園・認定こども園・保育園の機能の明確化と統廃合》 ・ 保育所では待機児童がいる一方、幼稚園・認定こども園は園児の確保に苦慮している。保育園と幼稚園の機能を明確にして保護者が選択できるように考えてほしい。統廃合を含め、見直しをもった検討が必要。 《全市的な保育の受入れ体制整備》 ・ 市直営の保育所と民間委託の保育所での保育時間が異なっている。すべての保育所が同じ条件で子育て支援の受入れ体制ができるといいと思う。 《親の子育て力を伸ばす》 ・ 初めてお母さんになった人への支援(BP1プログラム)や、今後、第2子以降をもったお母さんに対する支援(BP2プログラム)の実施。
認定こども園	《雲南市ならではの子育て支援拠点の設置》 ・ 大人へのサービスばかりではなく、子ども目線で保育を考え、子育て支援を様々な機関が連携して取り組むことが必要。 《社会全体で長期的視点をもった子育て支援計画》 ・ その時々だけでなく、長期的な視野に立った子育て支援計画を立てて取り組んでほしい。
幼稚園	《家庭における子育て支援》 ・ 子どもへの愛情の伝え方、一緒に過ごす時間、日常生活の基礎など、家庭の役割の大切さを繰り返し伝えていく。 ・ 「子育てするなら雲南市」について、具体的に今後の計画を示す。 《職員の労働環境の改善》

	- 働く職員の士気が高まる労働環境づくり。 - 現場の職員の悩みを聞き、課題を把握した現場支援と人材確保。 《児童虐待防止と早期対応》 - 児童虐待は社会全体で解決すべき課題として、保護者への啓発活動と、早期発見・早期解決のため各施設と行政及び関係機関との連携を図る。
子育て支援センター	《制度や事業の枠を超えた連携の仕組みづくり》 - 公的な事業と制度だけでは支援が行き届かない部分があり、事業や制度の隙間を埋める支援体制が必要になる。制度や機関の枠を超えた取組みと連携を可能にする仕組みづくりが求められる。 《子育て支援に関する情報発信》 - 情報の伝達が必要。支援やサービス、子育て支援、一時預かり、ファミリー・サポート・センター事業を知らない人が多い。 《各地域の子育て支援センターの土曜日開所》 - 木次子育て支援センターの土曜日開所はとても喜ばれている。他地域からの利用もあり、各地域での開所を検討してはどうか。 《専門員の配置・派遣》 - 子育ての悩みや不安に応じた専門の方の配置や地域への派遣。栄養士、助産師、歯科衛生士などが定期的な巡回。
放課後児童クラブ	《放課後児童クラブ以外の、子どもたちが過ごせる場所の整備・充実》 放課後児童クラブ以外にも、子どもたちが放課後に自宅以外で過ごせる場所を整備・充実させる必要がある。特に、中・高学年に適した利用・過ごし方ができる場所が必要。(例: 交流センター等の施設を利用した居場所事業など)
ファミリー・サポート・センター	《ニーズに応じた援助の対応》 ファミリー・サポート・センター事業が無償化の対象となった場合、利用増加が想定され、援助の対応が追いつかなくなるのではないかと不安。

10. 行政に期待する支援策

【設問】行政に期待する支援策があればご記入ください。

保育所・保育園	《施設の修繕》 - 施設の老朽化が目立つ。予算を組んで対応していただきたい。 《外遊びのできる公園整備》 - 外で遊ぶことのできる公園などがあるといい。 《出産後、子育てへの早期の支援》 - 出産後、産後うつの傾向になりやすいため、早期の段階で子育てできる仲間づくりや基礎的知識の提供機会の支援策が求められる。助産師・保健師・保育士・看護師などつながりがもてると個別に対応しやすくなる。 《保護者の不安感に対する説明》
---------	---

	・ 施設の新設や事業の開始にあたっては、市当局と事業者とで保護者の不安感を払しょくさせる説明が必要。 《相互の情報共有と連携促進》 ・ 会議の開催や、近隣の保育所との連携など、公立・私立の枠を超えた情報共有と連携の促進。
幼稚園	《統廃合の検討》 ・ 現時点では統合の話は出ていないが、このまま園児の減少が続けば、統合も視野に入れた検討・協議が必要。 《職員の確保》 ・ 保育所や認定こども園は職員数の増加が必要。
子育て支援センター	《市独自の部局横断的な支援体制》 ・ 国の政策や施策だけでなく、県や市独自での政策・取組みの事業化を期待したい。 ・ 子どもへの支援、子育てへの支援、教育支援ができる、部局を横断した支援策を実施できる「部門」のような仕組みを導入するといいいのではないかな。 《モデル的取組み支援》 ・ 今後の支援事業モデルに可能性がある民間の取組みに対して、支援・推進を望む。
放課後児童クラブ	《人材確保のための予算》 ・ 必要な職員人数を確保できる予算措置。 《市独自の部局横断的な支援体制》 ・ 既存の施設、学校施設など利用可能な施設・スペースは事業や部局を超えて徹底的に活用することが望ましい。 ・ 関連する事業に従事する人材は、事業・部局を超えて携わることができるように改革することで事業の量的拡充と質の向上を実現できると考える。

11. その他の意見

【設問】このほか、ご意見や要望等あれば、ご記入ください。

保育所・保育園	《子どもの育ちにとっての支援が重要》 ・ 親のニーズばかりが中心にならないように、子どもが安心して過ごせるためには家庭の存在があつてこそなので、まずは子どもたちにとって大事なサービスを考えていくことが重要。 《土曜保育利用のルール明確化》 ・ 今後、保育料無償化により土曜保育を利用する保護者が増えると思われるが、保育士をこれ以上増やすことは難しい現状。利用にあたってのルールを明確にし、本当に困っている保護者が利用できるようにしてほしい。
認定こども園	《保育者が働く環境整備》 ・ 崇高な思いや意思を持っている保育者も多いが、業務や要求の多さから疲

	弊してしまうのではないかと恐れている。子どもたちのため、働く人のため、雲南市の将来のために充実した保育環境を構築してほしい。 《見通しをもった施設配置の検討》 ・ 認定こども園、小学校、中学校の在り方について、地域の要望を尊重し聞くだけでなく、見通しをもっと行政主導で取組むべきではないか。 ・ 幼稚園は必要な存在。無くさない政策をお願いしたい。
幼稚園	《現場の実態把握による対策》 ・ 行政と現場の担任教員とがじっくり話す機会をもち、実態を把握して対応してほしい。 《園児の減少と今後の見通し》 ・ 園児の減少により経営が危機的状況にある。早い段階で見通し、計画を示してほしい。
子育て支援センター	《変化に対応した支援と予算措置》 ・ 子育て家庭が必要とするものが日々変化している。これを見極めた支援の形を作り上げていくことは容易ではない。短期的成果を求め、予算を縮小する現状には疑問を感じる。 《保護者ニーズと子育ての理想》 ・ 保護者のニーズに応えるだけでなく、母子関係をしっかりつくることの大切さをわかってほしい。子育て支援の充実と理想が反比例する。
放課後児童クラブ	《希望する人が利用できる運営》 ・ 校区割によって、希望しても利用できない児童が出てきた。これまでの経緯を考慮し、希望者が利用できる施設であってほしい。 《小学校臨時休業時の対応についての再考》 ・ 「臨時休業等の放課後児童クラブの対応について」という方針が出されたが、現実的には災害時に子どもを学校から移動させることは危険であり、学校で待機させるべき。
病児・病後児保育室	・ 地域の実情に応じた保育の整備、子育て支援制度、親が働きやすい環境づくり。